
1 4 0 文字小説 その3

並木 道生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

140文字小説 その3

【Nコード】

N5617V

【作者名】

並木 道生

【あらすじ】

ツイッターの#tnovelに投稿した話です

また彼女が流行の顔に整形してきた。やはり可愛い。服を着替えるように顔やスタイルを変えるのだ。つきあって3年になるが、僕は3年前の彼女の顔を覚えていない。ある時、君の本当の顔を知らないといったら、そういえば私も知らないと笑った。まあ、僕も似たようなものか

月が玉子に見えた夜。生まれるヒヨコを夢想して、それが雄鶏になったなら、驚くほどの大声で、朝が来るのを鳴くでしょう。ここに一人の弓上手、朝の二度寝が大好きで、月の雄鶏の噂をきいて、これでは朝が台無しと、弓を片手に月を待つ。

牛の背中に鞍のせて、京より東へ下ります。鞍の上には姫がいて、姫の上には月があり、月の側には群雲が紫色で空にあり。雲の上には雷様が、一人無聊にいました。入道相国ゆるすまじ。雷様の力を借りて一人のややを生みました。源氏の始まる少し前。平氏が終わる少し前。

空から糸が垂れていた。ごく普通の糸だ、僕は迷う事無く、糸に尺取り虫をくつつけた。尺取り虫は当たり前のように、ゆっくり、だが確実に空にむかつて這って行く。上手く行けば何番目かの宇宙に到達した生物になるはずだ。

月が巨大なお団子だと分かった時から、人類の宇宙進出が本格化し

たと言つて良いと思います。ほぼ無尽蔵ですから、これで食料問題は解決する。誰もがそう思った事でしよう。まさかこのお団子に合うタレが見つからないなど、誰も予想できなかった時代の話です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5617v/>

140文字小説 その3

2011年10月9日10時20分発行